

ノートン サイバーセキュリティ インサイト レポート

国別比較



アンケート結果の項目	日本	すべての地域 (17ヶ国)
過去1年間のネット犯罪による被害額	2,258億(円)	1,500億(USD)
ネット犯罪による被害を懸念する人の割合	91%	80%
公共Wi-Fiの利用は公衆トイレの利用よりも危険度が高いと考える人の割合	55%	60%
ネット犯罪被害の事後対応に費やす平均所要時間	29時間	21時間
財布から現金が盗まれるより、ネットショッピングの利用によりクレジットカード情報が盗まれる可能性の方が高いと考える人の割合	70%	62%
安全なパスワードを「常に」使用している人の割合	17%	38%
同じパスワードを共有している人の割合、およびそのアカウントの種類	電子メールアドレス 41% ソーシャルメディア 29% 銀行口座 18%	電子メールアドレス 55% ソーシャルメディア 43% 銀行口座 27%
自身のネットセキュリティ対策は完璧であると信じている人の割合	4%	15%
個人の財務情報(銀行やクレジットカードに関する情報)の漏洩があった場合、深刻な影響が及ぶと考える人の割合	73%	81%
ネット犯罪の被害に遭った場合に、どのように対処すべきか理解している人の割合	9%	30%
ネット被害に遭ってクレジットカードの利用停止手続きをするくらいなら、親友との食事の約束をキャンセルする方を選ぶという人の割合	23%	51%
「個人情報の盗難」・「仕事上でのプレゼンの準備」・「乳幼児の泣き声」にストレスを感じる人の割合	個人情報の盗難 76% 仕事のプレゼン 49% 乳幼児の泣き声 63%	個人情報の盗難 74% 仕事のプレゼン 45% 乳幼児の泣き声 54%
ネット犯罪の被害に遭っているにもかかわらず、自身は「ネット犯罪の対象とはならない」と考えるミレニアル世代の割合	「オンライン犯罪の対象とはならない」と考えるミレニアル世代 38% オンライン犯罪による	「オンライン犯罪の対象とはならない」と考えるミレニアル世代 38% オンライン犯罪による
他人とパスワードを共有している人の割合	男性 9% 女性 8%	男性 20% 女性 25%